

環境共生都市長岡を世界に発信

社団法人 長岡市緑地協会
理事長 鈴木重吉

名実ともに公益事業の積極的な推進を目指して定款の見直しと、法人名が変更されました。地球規模での環境破壊が劇的スピードで進み、私たちの住む長岡に目を向けてみても、もはや疑いの余地のない現実として、気温の上昇、山の荒廃、動植物の生態系の異変など多くの問題が明らかになるにつれ、豊かなみどりや生物の多様性がいかに大切なのか、一刻の猶予もありません。地球という生命維持のために

協会もこれまでのように、公園や街路、緑地整備など住環境廻りを主とした緑化啓発では済まなくなつてまいりました。大切なふるさとの環境全般に、もっと広く、深く、心を配り、是正のために最大限の努力を尽くさねばなりません。なぜならば、この組織は緑をキーワードとした唯一の公益法人であつて、これからは潤いと安らぎの場を育む大きな使命を持つていくからであります。そして、その理念を具現するためには、これまで以上の研鑽はもとより、より多くの市民の積極的な参加が必要となります。

そんな事から大幅な変更を踏み切つた訳であります。かくして、受け皿は整いました。かくなる上は市民の方々から積極的に参加いただき、地域環境の、よりよい改善と地域コミュニティの増進のための活動に参加していただきたいのです。そのことが必ずや遠くない将来に、大きな地域財産となることは明白です。しかも、環境悪化に歯止めをかけ、地域の自然を豊かにすることがそれぞれの地域で進めば、我が国全体の環境改善になり、環境先進国日本として世界の環境改善に大きく貢献できるのです。

さあ！皆さん。環境共生都市長岡のスタートです



かけはしの森育樹会 水道町 瀬戸民枝さん

5月5日、春の育樹作業に参加しました。かけはしの森に関わらせていただいてまだ3年目、林業については全くの素人ですが、市内在住であり、森での作業が楽しく今回も参加させていただきました。毎回新鮮な発見をさせていただいています。今回は間伐作業。大人の背丈くらいある、数年かけて大きくなった木も、森の中での状況を考え、残念だけど伐採しなくてはならないものもありました。ただ、伐採した木は細かく砕かれ、チップになってまたこの森に戻って、残った木々の役に立つとのこと。「かけはし」の森は、人間界のことだけでなく、樹木界のことでもあったのですね。

爽やかなお天気のもと、少しの疲労感とたくさんのすがすがしい気持ちで帰途につきました。



広がる
ひとの輪

冬囲い講習会に参加して 稲保 片山辰巳さん

私の家には猫の額ほどの庭に何本かの庭木と僅かばかりの所に野菜と花が乱雑に生えている。植える時は綺麗な庭を想像していたのだが、今迄私も仕事をしてきた為畑？には初穀と米糠だけを鋤き込むだけのいい加減なものでした。そのうえ土も悪く雨が降ると固くなり、私自身、知識も経験もありません。これから先何をやるにしても体が動くかぎり続けられるものはこれ以外には無いと思っています。だから「花と緑の教室」は私には大いに助かります。

来年も又、同じ催しに参加したいと思っているのは私だけでしょうか。



平成20年度 みどりの防災訓練に参加して

岡本護さん

私は交通誘導員を任され、県警の方に指導を頂きながら作業に参加しました。本部隊長の的確な指示及び方面隊長の指示伝達、参加された協会員の手際の良さを感じ、大変参考になりました。

今回は、災害下街路樹が倒木したとの設定で、まず建物内の人命救助、緊急車両及び除去作業車両の誘導、立入り禁止措置、倒木の除去、速やかな現場復旧、2次災害防止処置等が課題でした。指揮官の元で一致協力して作業する事が大事だと思いました。

今後は有事の際、人員・道具・車両・機械・機材を携帯し、いつでも迅速に出動出来るよう備えたいと感じました。

これからも日々防災に対する関心を深めより良い対応が出来るように知識を広めて行きたいと思ひます。

平成20年度 ～ 協会活動のあゆみ ～

4月	11日	復興支援でサクラ移植(川口町小高地区)
5月	4・5日	中越みどり復興アクション 事業推進会議
5月	10・11日	山古志復活祭 春の章・山菜園整備ほか
5月	29日	緑化講演会 震災復興に夢を掛けて
5月	29日	緑風37号発行
6月	1日	花いっぱいフェア開催
6月	1日	川口町小高地区で花苗を植える
7月	27日	山古志復活祭 夏の章・環境学習ほか
11月	2日	山古志復活祭 秋の章・ぶな街道5ヶ所でスタート
11月	3日	縄文ぶな街道ものがたり 発信記念シンポジウム
12月	10日	緑風38号発行
1月	19日	長岡市の緊急雇用対策に参加
1月	22日	より幅広い活動を目指し"長岡市緑地協会,"と改称
2月	17日	長岡市と災害協定を締結
2月	19日	みどりの総合防災訓練を実施



鈴木重吉 理事長



復興アクション山古志復活祭 夏の章

ともに大空を舞おう

社団法人長岡市緑地協会理事
長岡造形大学教授 平井邦彦

新潟県は、04年の中大震災からの復興を、活力に満ちた新たな持続性の獲得」と定義したが、震災から5年の節目の年を迎える今年、中越の被災地には新たな持続性の獲得とは何かの具体的なイメージが求められている。トキと共生できる自然環境の再生は、これに対する解答の一つである。

昨年9月佐渡で放鳥されたトキは、一気に海を越え、予想もなかった行動をとっている。放鳥トキは、佐渡の一角にひっそりと住み、臆病で人間に対しても非常に警戒心が強いという従来のイメージを完全に覆した。中越の被災地とりわけ中山間地は負けてはいられない。ともに大空への飛翔を競おう。

